

景 気 動 向 調 査

(第 164 回)

2012 年 1 月 ~ 3 月 期 実 績

2012 年 4 月 ~ 6 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力のもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。尚、東日本大震災の影響により、2011年1月～3月期実績及び4月～6月期予測の調査については実施しておりません。

記

1. 実施時期 2012年3月下旬～2012年4月上旬
2. 調査対象期間 2011年12月～2012年3月期実績
 2012年4月～6月期予測
3. 調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先 岩手県内企業 400社
5. 回答数 175通（回答率 43.75 %）
 <内訳> 製造業 54社 建設業 36社 卸・小売業 85社
6. 調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2012年1～3月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で13.3と前期（10～12月期）18.9に比較し、32.2ポイントと大幅に上昇している。4～6月期は売上高・収益や資金繰り等は低下する見通しもあるが、景況感や販売価格は引続き上昇する見通しが示されており、穏やかな回復軌道を保っている。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	1～3月期実績	4～6月期見通し
景況感	13.3	18.6
売上高・出荷高	42.2	19.0
収益	24.1	2.4
販売価格	1.7	11.0
仕入価格	37.9	39.9
資金繰り	6.9	1.6

国内経済をみると、個人消費や設備投資等の内需は底堅く推移している。復興需要は土木工事などの公共投資が中心だが、住宅投資等の民間投資は被災土地地の利用が確定する年度後半に増加する見込み。

一方、欧州経済・為替動向、中国経済の減速感等の不確定要素も存在する。また、エコカー補助金等の政策効果の反動や、電力供給制約が国内景気に与える影響もあり、動向を注視する必要がある。

岩手県内経済は、着実に回復の方向に向かっている。雇用情勢や製造業生産は震災前の水準に回復した。公共工事も前年を上回る状況で堅調推移している。

企業収益は黒字確保を維持しながら、次第に設備投資も増加の見込みである。また、いわてD Cや平泉の世界遺産登録の経済効果も期待される状況である。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第153回	09年1～3月	92.7
2	第152回	08年10～12月	91.3
3	第124回	01年10～12月	91.2
4	第109回	98年1～3月	90.6
5	第111回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について

全体のD Iは、13.3となっている。

各業種別のD Iをみると、製造業が 20.3、建設業が 25.6、卸・小売業が 29.4である。4~6月期見通しでは、製造業が 29.6ポイント、建設業が 6.9ポイント上向き、卸・小売業が 10.2ポイントと下向く見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では 42.2 となっている。業種別では、製造業が 7.4、建設業が 58.3、卸・小売業が 57.6 である。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は 11.1、卸・小売業の仕入高は 48.9 となっている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫は 14.8、卸・小売業の商品在庫は 10.3 となっている。

(4) 収益

D Iは、全体では 24.1 となっている。業種別では、製造業が 3.6、建設業が 38.8、卸・小売業が 35.3 である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 1.7、仕入価格は 37.9 となっている。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は 23.8% となっている。

業種別では、製造業が 25.0%、建設業が 16.7%、卸・小売業が 26.2% である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が 2 位、「経営の多角化」が 3 位となっている。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では 6.9 となっている。業種別では、製造業が 3.6、建設業が 5.5、卸・小売業が 9.5 である。

5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「収益不振」、「販売価格安」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 全業種としての景況見通し、上向きが継続 ～

[1～3月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、全業種では「良い」と答えた企業が42.0%（前期28.1%）、「悪い」が28.7%（同47.0%）で、DIは13.3（同 18.9）と、32.2ポイント上向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 20.3（同 45.2）、建設業が 25.6（同25.0）、卸・小売業が29.4（同 20.4）となっている。

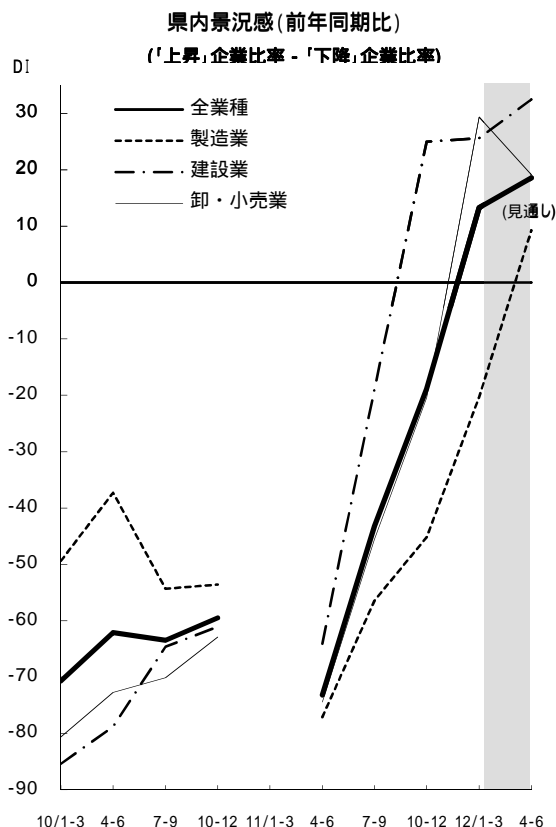
卸・小売業の上向き傾向が顕著である。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が39.7%、「悪くなる」が21.1%であることから、DIは 18.6となり、1～3月期実績と比較すると上向き見通しとなっている。

業種別にみると、製造業が9.3、建設業が32.5、卸・小売業が19.2となっており、製造業と建設業は更に上向き見通しとなっている。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	1～3月 (実績)	4.6	37.4	29.3	19.5	9.2	13.3
	4～6月 (見通し)	5.8	33.9	39.2	15.8	5.3	18.6
(製造業)	1～3月 (実績)	1.9	20.4	35.1	25.9	16.7	-20.3
	4～6月 (見通し)	1.9	35.2	35.1	20.4	7.4	9.3
(建設業)	1～3月 (実績)	11.4	37.1	28.6	14.3	8.6	25.6
	4～6月 (見通し)	11.8	32.4	44.1	8.8	2.9	32.5
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	3.5	48.2	26.0	17.6	4.7	29.4
	4～6月 (見通し)	6.0	33.7	39.8	15.7	4.8	19.2



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 実績は再び上向きに転じたが、見通しは下向き方向に ～

[1～3月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が64.5%(前期53.5%)、「減少」が22.3%(同35.4%)となり、D Iは19.0(同42.2)と21.1ポイント大きく上昇した。

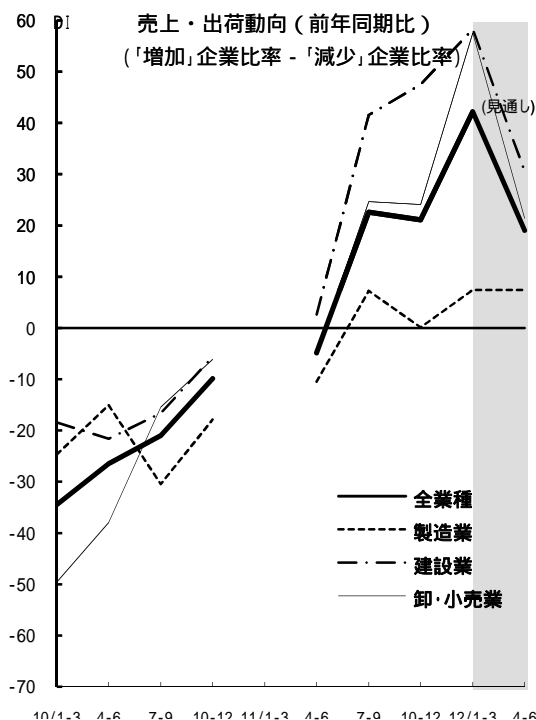
業種別にD Iをみると、製造業 7.4(前期0.1)、建設業 58.3(同47.5)、卸・小売業57.6(同24.1)となっており、全業種が上向いている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が43.7%、「減少」が24.7%であることから、D Iは19.0で、1～3月期実績と比較して下向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業で7.4、建設業で30.6、卸・小売業で21.4となっており、10～12月期実績と比較して建設業と卸・小売業は下向き見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I
全業種	1～3月(実績)	25.1	39.4	13.2	14.3	8.0	42.2
	4～6月(見通し)	7.5	36.2	31.6	17.2	7.5	19.0
(製造業)	1～3月(実績)	22.2	24.1	14.8	24.1	14.8	7.4
	4～6月(見通し)	7.4	35.2	22.2	25.9	9.3	7.4
(建設業)	1～3月(実績)	33.3	33.3	25.1	8.3	0.0	58.3
	4～6月(見通し)	5.6	41.7	36.0	11.1	5.6	30.6
(卸・小売業)	1～3月(実績)	23.5	51.8	7.0	10.6	7.1	57.6
	4～6月(見通し)	8.3	34.5	35.8	14.3	7.1	21.4



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業は実績・見通しとも上向く ～

〔1～3月期の実績〕 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が46.3%（前期45.2%）、「減少」が35.2%（同35.4%）で、DIは11.1（同9.8）と上向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は64.3%（前期49.4%）、「減少」が15.4%（同29.7%）で、DIは48.9（同19.7）であり29.2ポイントと大きく上向いている。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が42.6%、「減少」が27.8%であることから、DIは14.8で、1～3月期実績と比較して更に上向く見通しとなっている。

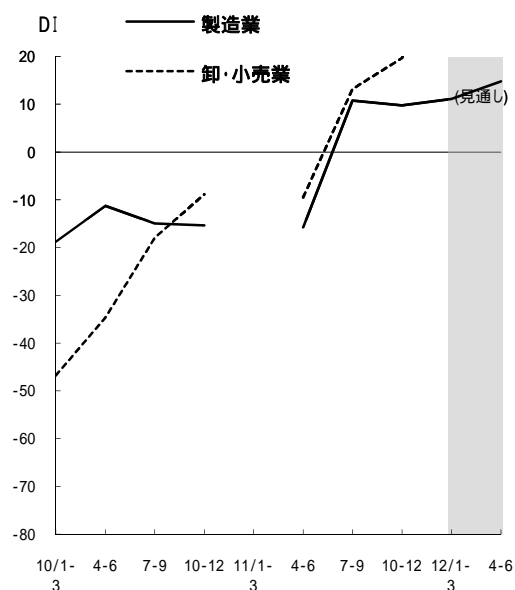
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が42.8%、「減少」が21.4%であることから、DIは21.4となり、1～3月期実績と比較しては、下向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	1～3月 (実績)	22.2	24.1	18.5	25.9	9.3	11.1
	4～6月 (見通し)	7.4	35.2	29.6	20.4	7.4	14.8
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	22.6	41.7	20.3	8.3	7.1	48.9
	4～6月 (見通し)	9.5	33.3	35.8	14.3	7.1	21.4

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業 D I は悪化し、卸・小売業 D I は良化～

[1～3月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は18.5%（前期19.3%）、「減少」が33.3%（同29.1%）であることから、D Iは 14.8（同 9.8）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が14.3%（同13.5%）、「適正」が77.6%（同78.8%）、「不足」が8.1%（同10.2%）である。

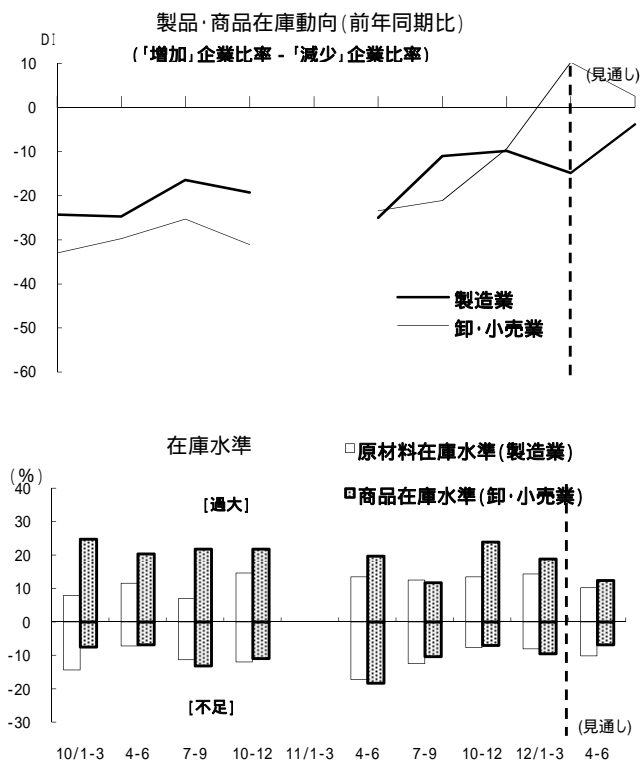
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が26.9%（前期16.0%）、「減少」は16.6%（同25.3%）であることから、D Iは10.3（同 9.3）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が18.9%（同23.9%）、「適正」が71.6%（同68.4%）、「不足」が9.5%（同7.7%）である。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が22.2%、「減少」が26%で、D Iは 3.8となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が10.2%、「適正」が79.6%、「不足」が10.2%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が20.8%、「減少」が18.2%であることから、D Iは2.6となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が12.4%、「適正」が80.8%、「不足」が6.8%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I
（製造業）	1～3月 （実績）	3.7	14.8	48.2	25.9	7.4	-14.8
	4～6月 （見通し）	3.7	18.5	51.8	20.4	5.6	-3.8
（卸・小売業）	1～3月 （実績）	9.0	17.9	56.5	12.8	3.8	10.3
	4～6月 （見通し）	7.8	13.0	61.0	14.3	3.9	2.6



(4) 収 益

～ 各業種とも収益は上向くが、見通しは下向き～

[1～3月期の実績] 収益動向実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が50.9%(前期46.8%)、「減少」が26.8%(同34.2%)であり、D Iは 24.1(同12.6)となり11.5ポイントと大きく上向いている。

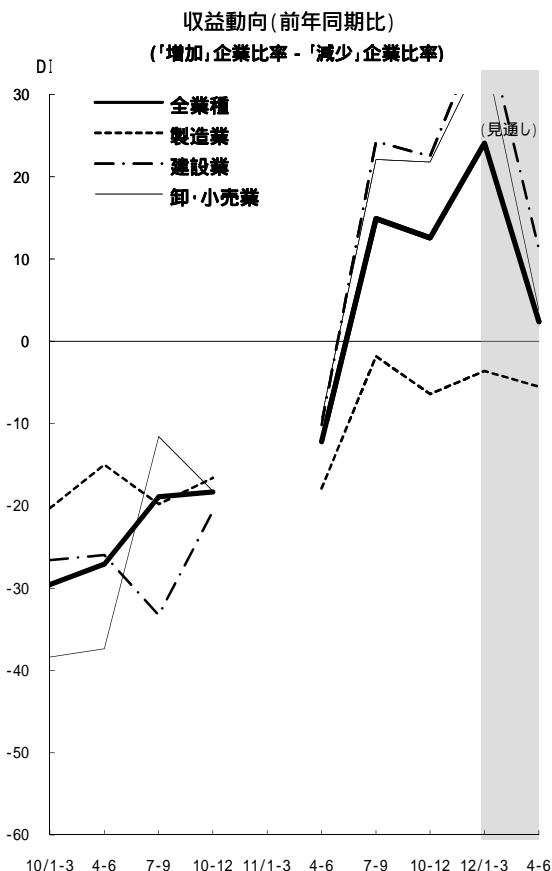
業種別にD Iをみると、製造業 3.6(前期 6.4)、建設業 38.8(同22.5)、卸・小売業 35.3(同21.8)と、全業種で上向きとなっている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が32.2%、「減少」とみる企業が29.8%であることから、D Iは 2.4で、1～3月期実績と比較して21.7ポイント下向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 5.5、建設業11.2、卸・小売業3.8で、1～3月期実績と比較して、各業種とも下向き見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月 (実績)	16.6	34.3	22.3	17.1	9.7	24.1
	4～6月 (見通し)	5.3	26.9	38.0	25.1	4.7	2.4
(製造業)	1～3月 (実績)	16.7	20.4	22.2	25.9	14.8	-3.6
	4～6月 (見通し)	3.7	27.8	31.5	29.6	7.4	-5.5
(建設業)	1～3月 (実績)	19.4	33.3	33.4	11.1	2.8	38.8
	4～6月 (見通し)	5.6	30.6	38.8	16.7	8.3	11.2
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	15.3	43.5	17.7	14.1	9.4	35.3
	4～6月 (見通し)	6.2	24.7	42.0	25.9	1.2	3.8



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売・仕入価格とも上向きの見通し～

[1～3月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が16.7%（前期22.0%）、「低下」が15.0%（同20.4%）であることから、DIは1.7（同 3.8）と上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が42.5%（前期39.6%）、「低下」が4.6%（同7.1%）であることから、DIは37.9（同 32.5）と大きく上向いている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が24.4%、「低下」とみる企業が13.4%であることから、DIは11.0で、1～3月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

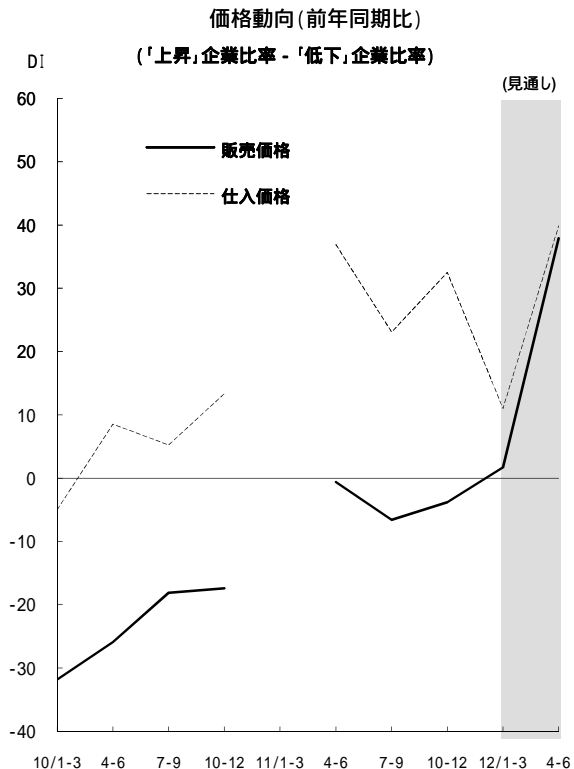
仕入価格については、「上昇」とみる企業が43.9%、「低下」とみる企業が4.0%であることからDIは39.9となり、1～3月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

		（%）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	1～3月 (実績)	2.3	14.4	68.3	9.8	5.2	1.7
	4～6月 (見通し)	0.6	23.8	62.2	10.5	2.9	11.0

仕入価格(前年同期比)

		（%）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	1～3月 (実績)	6.9	35.6	52.9	4.6	0.0	37.9
	4～6月 (見通し)	2.9	41.0	52.1	4.0	0.0	39.9



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 建設業と卸・小売業は見通しが上向きの方角 ～

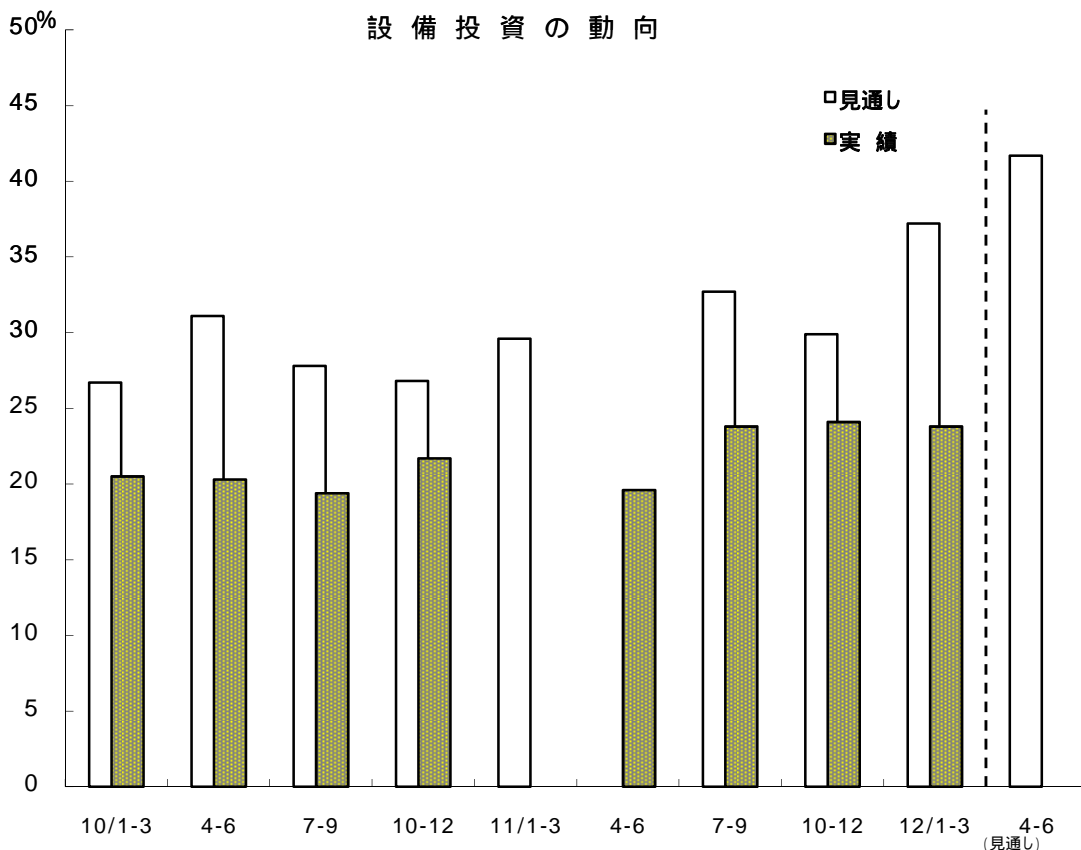
[1～3月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は23.8%（前期24.1%）とほぼ横ばいである。

これを業種別にみると、製造業25.0%（前期27.4%）、建設業16.7%（同23.7%）と下向いており、卸・小売業26.2%（同22.1%）は上向いている。

[4～6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で24.1%（前期17.8%）、「計画はあるが具体化していない」は17.6%（同19.4%）、「計画はない」は58.3%（同62.8%）であった。

「計画あり」は合計41.7%（同37.2%）と前期予想を上回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で40.4%（前期42.7%）、建設業で37.1%（同28.2%）、卸・小売業で44.6%（同37.6%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

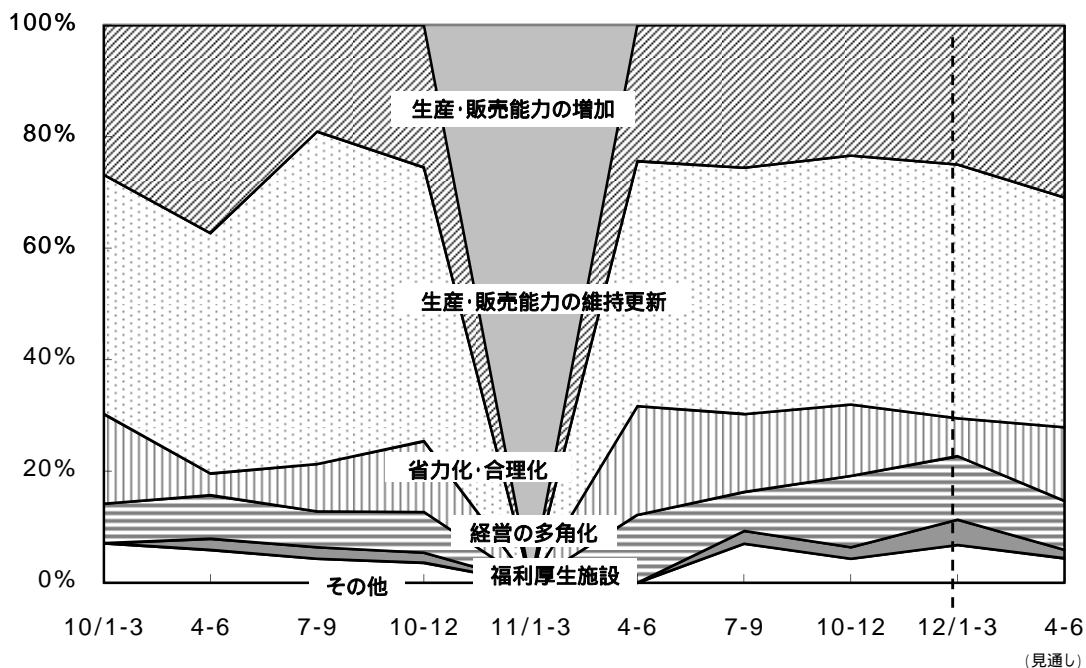
[1～3月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(20.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が45.5%（前期44.7%）でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が25.0%（同23.4%）で2位、「経営の多角化」が11.4%（同12.8%）で3位となっている。

業種別にみると、製造業と卸・小売業は「生産・販売能力の維持更新」がトップであり、建設業では「生産・販売能力の増加」と「生産販売能力の維持更新」「福利厚生施設」が同順位となっている。

[4～6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(41.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が41.2%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」30.9%、「省力化・合理化」13.2%の順となっている。

業種別では、製造業、建設業においては「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」がトップである。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 資金繰りは実績・見通しとも下向く ～

[1～3月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が26.3%(前期26.1%)、「苦しくなった」が19.4%(同24.5%)であることから、D Iは6.9(同1.6)と上向いている。

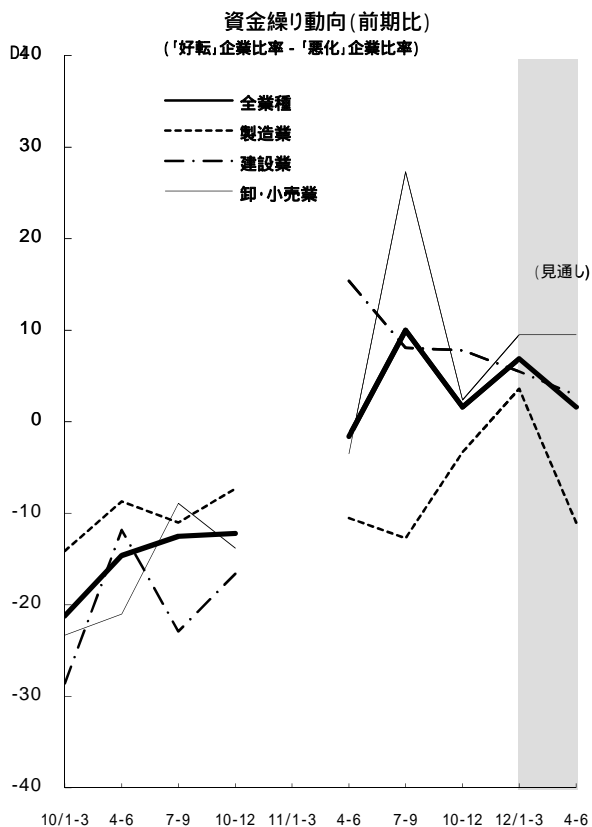
業種別にD Iをみると、建設業が5.5(同7.8)と下回ったが、製造業が3.6(前期 3.3)、卸・小売業は9.5(同2.4)と共に上向いている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が18.9%、「苦しくなる」が17.3%で、D Iは1.6となり、1～3月期実績と比較して、下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 11.0、建設業2.9、卸・小売業9.5となっており、1～3月期実績と比較して、建設業と製造業は下向く見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		D I (%)						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	1～3月 (実績)	9.7	16.6	54.3	16.0	3.4	6.9	
	4～6月 (見通し)	3.4	15.5	63.8	14.4	2.9	1.6	
(製造業)	1～3月 (実績)	7.4	14.8	59.2	16.7	1.9	3.6	
	4～6月 (見通し)	5.6	5.6	66.6	18.5	3.7	-11.0	
(建設業)	1～3月 (実績)	19.4	11.1	44.5	19.4	5.6	5.5	
	4～6月 (見通し)	2.9	20.0	57.1	20.0	0.0	2.9	
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	7.1	20.0	55.3	14.1	3.5	9.5	
	4～6月 (見通し)	2.4	20.0	64.7	9.4	3.5	9.5	



(2) 現金・預金

〔1～3月期の実績〕 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が31.4%（前期27.2%）、「減少した」が25.7%（同27.7%）であることから、DIは5.7（同 0.5）と上向いている。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が21.4%、「減少する」が24.9%であることから、DIは 3.5（前期 13.6）と下向く見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

〔1～3月期の実績〕 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が18.9%（前期25.2%）、「減少した」が32.6%（同28.1%）であることから、DIは 13.7（同2.9）と下向いている。

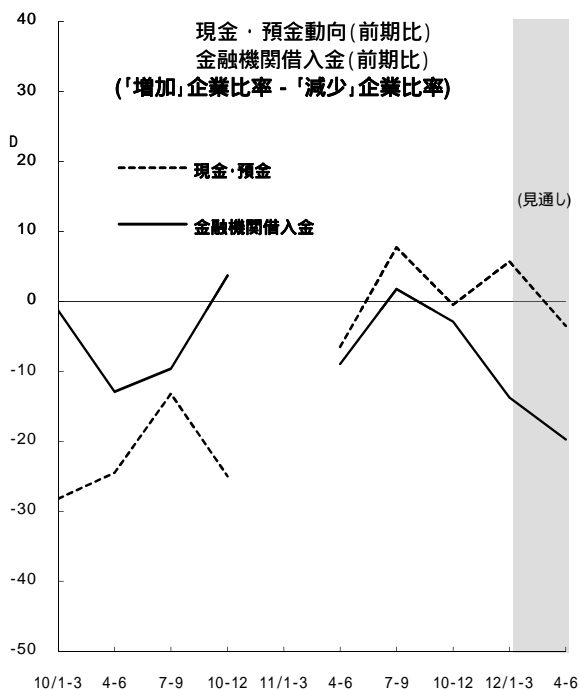
〔4～6月期の見通し〕 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が12.5%、「減少する」が32.2%であることから、DIは 19.7（前期 21.0）と下向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月 (実績)	9.1	22.3	42.9	19.4	6.3	5.7
	4～6月 (見通し)	3.5	17.9	53.7	19.1	5.8	-3.5

金融機関借入金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月 (実績)	5.9	13.0	48.5	24.9	7.7	-13.7
	4～6月 (見通し)	2.4	10.1	55.3	27.4	4.8	-19.7



(4) 販売代金回収期間

[1~3月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が9.1%(前期7.6%)、「長くなった」が9.2%(同9.3%)であることから、DIは0.1(同1.7)となった。また、81.7%(同83.1%)の企業は「変わらない」としている。

[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が6.9%、「長くなる」が4.6%であることから、DIは2.3(前期2.2)となる。また、88.5%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[1~3月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が5.7%(前期1.6%)、「短くなった」が3.4%(同7.1%)であることから、DIは2.3(5.5)となった。また、90.9%(同91.3%)の企業は「変わらない」としている。

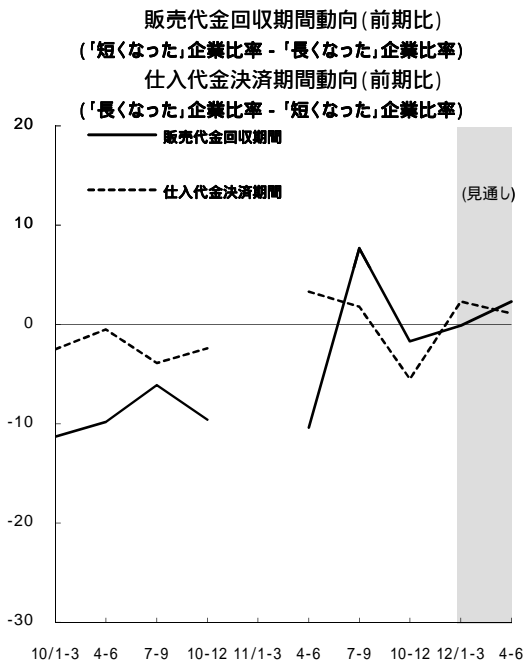
[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が4.0%、「短くなる」が2.9%であることから、DIは1.1(前期2.3)となる。また、93.1%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	1~3月 (実績)	1.7	7.4	81.7	8.6	0.6	-0.1
	4~6月 (見通し)	0.0	6.9	88.5	4.0	0.6	2.3

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	1~3月 (実績)	0.0	5.7	90.9	3.4	0.0	2.3
	4~6月 (見通し)	0.0	4.0	93.1	2.9	0.0	1.1



5. 経営上の問題点について

～ 各業種とも収益面での問題点を抱える状況 ～

1～3月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」20.7%（前期25.4%）、「収益不振」15.6%（同12.2%）、「販売価格安」12.0%（同10.9%）、の順となり、問題点の上位に変更はない。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」22.7%（同26.1%）がトップとなり、「原材料・仕入価格高」19.6%、「販売価格安」12.4%の順となっている。建設業では「収益不振」15.9%（同15.9%）がトップとなり、「過当競争」15.9%、「売上・受注不振」と「原材料・仕入価格高」が12.7%の同順位となっている。卸・小売業では「過当競争」20.3%（同21.0%）、「売上・受注不振」14.9%、「販売価格安」12.8%の順となっている。

